

日本医史学雑誌 第四十卷第三号 目次

原 著

戦前合州国に留学した精神病学者たち（上）——松原三郎、齋藤玉男、石田昇ほか——……………岡田 靖雄……………三五
 山下御門内仮病院……………黒澤 嘉幸……………六一

研究ノート

済生学舎廃校の歴史……………唐沢 信安……………二九
 近代日本鍼術の拠り所……………濱田 淳・長尾榮一……………三五

資 料

池田文書の研究（十一）……………池田文書研究会……………三五

記 事

消 息……………長門谷洋治……………三六
 例会抄録…………………………三七

上山藩医奥山玄育と荻野元凱……………深瀬 泰且……………三七

幕末薩摩藩と大円寺……………中西 淳朗……………三八

ケガレと臓器移植……………杉田 暉道……………三〇

横浜・太田陣屋の研究……………中西 淳朗……………三一

近世日本の医薬界における神農画賛流行の背景……………小曾戸 洋……………三三

紹 介

吉岡郁夫・長谷部学著『ミルンの日本人種論―アイヌとコロボクグルー』	戸部 一郎	三二四
堀内 冷著『兵庫医史散歩』	奥沢 康正	三二六
フォス美弥子編訳『幕末出島未公開文書―ドングルリクルチウス覚え書』	ヴォルフガング・ミヒエル	三二七
坂井建雄著『からだの自然誌』	永野 貞子	三二八
小池猪一著『図説・日本の「医」の歴史』	蒲原 宏	三四〇
室賀正信著『沼津・室賀病院―医系家族百年の記録―』	土屋 重朗	三四三
山本俊一著『日本らい史』	新村 拓	三四三
蒲原 宏著『新潟県医学史覚書』	大滝 紀雄	三四四
長谷川正康著『歯の風俗誌』	谷津 三雄	三四五
医史学文献目録 平成四(一九九二年)		三四八

〈本号の表紙絵〉

片倉鶴陵の夢に現れた張仲景

中国医学のバイブル『傷寒論』の原書を著した3世紀頃の張仲景は、のち医聖として崇められたが、もちろん実際の肖像画などはない。

本図は世界初のシュリングゲによる鼻茸の切除術を記載したことで知られる片倉鶴陵(1751~1822)の著、『傷寒啓微』(1792)の中巻に載る。その賛によると1790年の冬、『傷寒論』の煩躁の義を考えつつ床に就いたところ、夢に仲景が童子を従えて現れた。鶴陵が再拝し、煩躁の義を問わんとしたところ目が覚めた。そこで友人の画家・寒巖馬孟熙に托して本図を描いた、という。

図は数ある仲景の図や像の中でも、童子を従え夢に現れた点で異色といえよう。(矢数道明氏所蔵本による)

(真 柳 誠)